

青い鳥

第 66 号

2017 年 1 月 24 日発行



田無手をつなぐ親の会

西東京市 3-2-12 サンクレスト西原 302 号

TEL : (042) 452-3739

FAX : (042) 452-3740

❀❀❀❀目次❀❀❀❀

項目	内容	執筆者	頁
会長あいさつ	新年を迎えて	会長 小矢野 和子	1
講演会・講座の感想	総会後の講演会 「社会福祉協議会の活動 について」を聞いて	4班 青山 恭彦	2-6
	育成会大会講演「スウェー デンの福祉について」	4班 青山 恭彦	
	市役所社会福祉課出前講 座「障害者福祉サービスの あらまし」に参加して	4班 箕田 敦子	
	社会福祉法人トポスの会「平 先生の講演会に参加して」	4班 小矢野 正夫	
	東京都知的障害者育成会 大研修会で学んだこと	4班 青山 恭彦	
施設見学の感想	「小平福祉園」を見学して	8班 島村 佳代	7
親子旅行の感想	「親子旅行に参加して」	さくらの園 支援員 権藤 彰 佐々木 牧人	8-11
		4班 三津井 啓允	
		4班 小矢野 慎平	
		5班 白石 明日香	
	2班 田代 敏	4班 岡頭 三枝子	
	5班 清水 博	6班 島田 麻里	
	2班 松浦 信之	2班 佐藤 重雄	
	4班 名古屋 幸恵	5班 菅沼 恵美	
	8班 伊藤 優也		
☆☆☆編集後記☆☆☆			12

【会長あいさつ】



新年を迎えて

田無手をつなぐ手をつなぐ親の会
会長 小矢野 和子

新年明けましておめでとうございます。

平成 26 年より会長を務めさせていただき、2 期目となりました。そして、平成 28 年 5 月 22 日より東京都知的障害者育成会（以下都育）で第 5 ブロックの代表として理事職を拝命しております。

第 5 ブロックは東京 23 区以外の多摩支部の集まりで、24 支部が所属しています。23 区と比較して所属支部が多く、第 5 ブロック会の活動を年間 4 回行っています。各支部が持ち回りで見学会や講演会、新年会等を企画して交流を深めています。

理事としての活動は、第 5 ブロック会以外にも都育の理事会に出席し、社会福祉法人東京都知的障害者育成会の運営に当たる責任を担います。その他に親の会活動として東京都との対話集会、都議会への要望、東京都労働局交渉等で実体験に基づいて発言する機会を持たせていただきました。私の担当は、雇用に関するもので、一般就労して 10 年となる息子と共に歩んできた経験を踏まえて発言致しました。

理事としての日は浅いですが、都育の職員の皆さんの協力体制は、すごいと感じます。全ての行事において親理事の方々の努力と共に、職員の皆さんのサポートの素晴らしさに、驚いています。

また、都育では「本人部会」の担当理事となり月 1 回開催される運営委員会には毎回参加しております。この中で感じることは、都育の職員の皆さんの対応が、本人の方主体の活動を上手に、前に出すことなく、サポートされていることです。ご本人も、皆さん積極的でしっかりと自分の考えを持っていて、いつも感心しています。先日の津久井やまゆり園の事件についても一人一人が自分自身と向き合って考え、意見を述べていました。日頃から自分の考えを伝えるトレーニングによって、このような会議の積み重ねを通じて、発言できるようになるのだろうと感じました。

さらに、理事となって、講演会などに出席させていただく機会が増えました。その中で気づいたことは、福祉サービスが充実してもそれだけでは、十分ではないということ、痛みを分かち合える仲間との繋がりが何よりも力となるのではないかとということです。私自身が、親の会活動に従事しているのは、そこに意義を感じているからだと考えています。

皆様のご意見を伺いながら、皆様が色々な活動を通じて交流できる場を増やしていきたいと思えます。そして、田無手をつなぐ親の会として、少しでも前進できればと願っております。

本年も皆様のご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

【講演会・講座の感想】

【総会後の講演会】 「社会福祉協議会の活動について」を聞いて

4班 青山 恭彦

5月19日の「田無手をつなぐ親の会」の定期総会の終了後、西東京市社会福祉協議会（社協）の職員の方々から社協の活動について説明を受けました。（社協は西東京市から委託を受けて福祉活動を行っている民間団体です。）

1. 小口浩司さんから社協の事業について、パンフレットを基に説明がありました。

事業の目的は、地域でともに支え合うまちづくり＝安心して暮らせるまちづくり。住みよいまちづくりを市民と共に考える、そして、地域の課題に向き合い解決に取り組むために必要なことは地域住民の力であり、住民みんなの理解と支援がなければ、安心して暮らせるまちづくりは成り立たないと話されました。

2. 利光有紀さんからは、平成28年度から導入された「西東京市介護支援ボランティアポイント制度」について説明がありました。

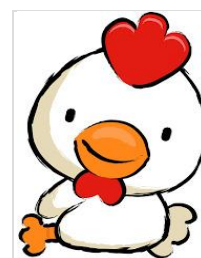
60歳以上の市民に福祉ボランティアを通じて社会参画を促し、地域の高齢者や障害者を見守り、支え合う活動に従事すれば、1ポイント100円で翌年度に換金できるという制度です。今促進されている地域トータルケアシステム、及び一億総活躍社会に向けた活動促進でしょう。

3. 本間輝さんからは「権利擁護センターあんしん西東京」の活動について説明がありました。

「あんしん西東京」は認知症状のある高齢者や知的障害・精神障害のある人のために日常生活の自立支援事業を行い、具体的には、福祉サービス利用援助、日常的金銭管理サービス、重要書類の預かりサービスなどを行っています。

社協がこのような事業を行っていることを知っている人はどれ位いるでしょう。いろいろ気になることが生じたら、「あんしん西東京」に相談するのが良いでしょう。田無手をつなぐ親の会の小矢野会長は「あんしん西東京」の運営審査委員会委員として参画しています。

聴いていて感じたことは、「お互いさま」で公共心をもって市民が自発的に行動しないと「住みよい暮らし」は実現できない、行政に期待しても隅々まで手が届くようなことは期待できない、という現実です。行動主体は行政ではなく、地域住民・当事者だということを知られます。



『スウェーデンの福祉について講演を聴きました』

4班 青山 恭彦

平成28年7月7日、新宿文化センターホールで開催された東京都育成会大会の研修で「スウェーデンの福祉」について講演を聴きました。講師はスウェーデンに住むエライン・ヨハンソンさん。今回の来日は9回目だそうです。

ヨハンソンさんには、レット症候群（主に女兒に起こる進行性の神経疾患で、知能や言語・運動能力が低下する病気）という重度の機能低下を持った1970年生まれの娘・ピアさんがいます。スウェーデンでは「障害」とは言わず、「機能低下」と言うそうです。

私は以前にもスウェーデンの福祉制度について話を聞いたことがありましたが、今回また聞く機会を得て、改めての同国の福祉制度の手厚さに驚かされます。東京都育成会大会で私たちはこのような講演を聴くということは、私たちはスウェーデンの福祉レベルを将来わが国にも、と目指して活動を続けていくためなのか、それとも、ヒントとしてわが国独自の障害者福祉システムを構想していくのか、いずれにしても、あまりに両国の福祉制度には隔たりがあり過ぎて、目指す目標としても余りにも遠すぎるような気がしてしまいました。

例えば、ピアさんは25歳の時、親元を離れてグループホームに移ったそうですが、そこではピアさんのために5人のパーソナル・アシスタントがついているそうです。もちろんパーソナル・アシスタントを利用するには時間の割り当てなど調整があるようですが、そのような福祉・介護資源が豊富にあることにうらやましさよりも、むしろ驚かされると言った方が私の素直な気持ちです。

さらに、エラインさんは、ピアさんが親元を離れることで、「ピアが自由になった、私と夫が自由になった、弟のペーターが自由になった」と話しました。私は、なるほど、これが福祉なんだ、と思い当たりました。これがスウェーデンの行きついた福祉制度。同時に、私は前に観た映画を思い出しました。アメリカ映画「ギルバード・グレイブ」です。レオナルド・ディカプリオが障害少年を演じた名画。あの映画、家族がそれぞれ自由になって行くシーンで終わりました。



7/13（水）、障害者総合支援センター「フレンドリー」2階会議室において、西東京市障害福祉課サービス支援係の職員による出前講座を開催いたしました。市からは係長の林真輝さん、主査の吉賀早苗さんのお2人、親の会からの参加者は23人でした。講座終了後、「フレンドリー」1階の『もぐもぐの森』から取り寄せたドライカレーセットを食べながら懇談を行い会員同士の親睦を深めました。

出前講座『障害者福祉サービスのあらし』に参加して

4班 箕田 敦子

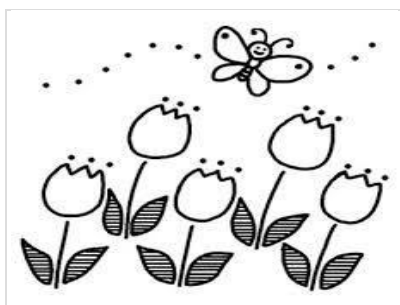
障害者総合支援法は、障害者が基本的人権を持つ個人の尊厳に相応しい日常生活、社会生活を営む為のもので、地域生活支援事業を含む総合的な支援を行うものです。身近なもので言えば、自立支援給付にあたる就労継続支援A型・B型、生活介護、短期入所、行動援護、グループホーム等。地域生活支援事業には、移動支援、相談支援、成年後見制度利用支援等があります。

障害者支援のサービスは昔に比べるとたくさん増えて、生活しやすい環境が整えられつつあるように思います。本当に有難いことです。育成会大会などに参加させていただくと親の力強さを感じ、この親の思いが支援者を動かし、世の中を変えていくのだと感じました。先輩の親御さんにも心から感謝です。

とはいえ、まだ将来の生活の場であるグループホームは市では作る予定はないとお話しされてきました。緊急時に慌てることのないように日頃から短期入所を利用しておくのもよいと思います。

それぞれの障害者、家族に合う支援、必要とするサービスは違うかもしれませんが、我々の子供達は大なり小なり支援が必要なのですから、上手にサービスを利用し、親が高齢になっても、親亡き後も、できれば慣れ親しんだ地域で子供達が安心して生活ができるよう準備しておくことは必要だと思います。

何か不安に思うこと、わからないことがあれば障害福祉課の窓口で相談しアドバイスをいただきますよう。



『平先生の講演会に参加して』

4班 小矢野 正夫

2016年9月12日、きらっとで開催された田無手をつなぐ親の会主催の講演会に参加しました。講師は社会福祉法人トポスの会の理事で、発達障害者支援の専門家であり、深い知見により実績を上げておられる平雅夫先生です。

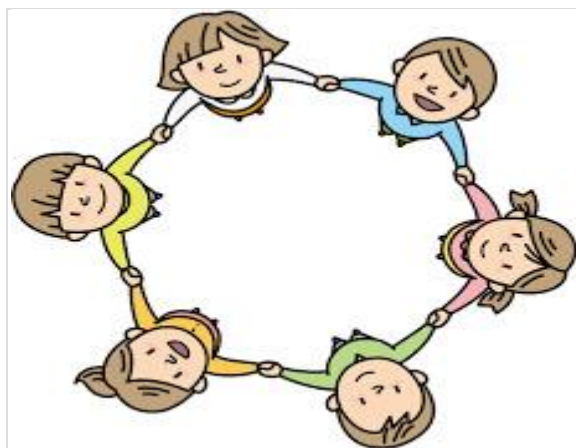
講演のテーマは「子どもたちの未来と私たちが考える支援」です。我々親にとっても大きな関心のあるテーマであり、当日の参加は盛況で、田無手をつなぐ親の会はもちろん、保谷手をつなぐ親の会の会員の方たち、特別支援学校に通学している子どもたちの親御さん等、幅広い世代の75名が参加でした。

「どうしてパニックをおこすの？」～我々親は、目の前で起きる子どもの（問題）行動のみに注意を向けて対処してしまいがちですが、平先生は、行動には必ず、理由があること、すなわち、「先行事象（どんな時に）→行動（どのような行動が起きて）→結果事象（それで、どうなる）」という一連のつながりの中で、環境を操作する形での支援の重要性について話をされました。

「親が一番わかっている」つもりになって、思い込みや決めつけに囚われてしまうことの弊害に気づかされ、普遍的な支援をすることの重要性について、先生のお話は腑に落ちるものでした。親は勿論ですが、支援の立場にある方も、障害の特性を理解し、支援の在り方について相互に認識を共有することで、子どもたちのより安定した日常につながるものと感じました。

現在準備中の西東京新施設ラシーネ（就労継続支援B型事業、生活介護事業）については、多くはお話いただけませんでしたでしたが、障害の特性に配慮した新しい支援の形として期待の持てるものだと思います。

親は子どもと最も近い距離にいるために、逆に全体を見過ぎしかねません。講演のお話から、一連の流れの中で分析的に考えることの重要性と、そうすることで、適切な支援につながる可能性について共感できました。講演の中で平先生が一貫して話された「学び手（子ども）は常に正しい」との視点を大切に、今後の子どもとの関わり方に示唆をいただいた、大変有意義な講演会でした。



『平成 28 年度 東京都知的障害者育成会 大研修会 で学んだこと』

4 班 青山 恭彦

平成 28 年 10 月 6 日、国立オリンピック記念青少年総合センター・カルチャー棟の大ホールで、午前 10 時半から午後 3 時まで、掲題の大研修会が開催されました。

田無手をつなぐ親の会からは会員 7 人が参加しました。

午前、明治学院大学の中野敏子名誉教授が「地域で自分らしく暮らすには」という演題で基調講演を行い、午後は「地域の暮らし・自分の暮らし」というテーマでシンポジウムが開かれました。中野先生の話は、これからの地域の福祉活動のあり方です。

講演を聴いていて、社会福祉施策が、障害者の課題解決という点から、高齢者や子どもを含み、そして、2025 年問題へと大きく面として拡大していることをはっきりと感じさせられました。これまで支えてきた仕組みの見直し→ 障害者・児童・高齢者という対象毎の縦割りによる解決や専門的サービスの実施体制から、地域包括ケアシステムの導入によって大きく変えていく、という制度の見直しのような気がしました。つまり、これは膨れ上がる医療費・介護費等の社会福祉費の軽減策とも受け止められるような仕組み変更のように思いました。

団塊の世代の全員が後期高齢者である 75 歳以上となる 2025 年以降の日本、今までの社会福祉施策は破綻か、復活できるか、とまで言われる日本。少子高齢化がますます進み、生産人口が減少し、非生産者である 65 歳以上の高齢者がますます増加する 2025 年問題。どうやって日本は切り抜けられるか、世界中の国から熱い視線を向けられています。

中野先生の講演には少子多高齢者によって生じるいろいろな課題・問題点の解決策については触れられなかったが（触れたら 1 時間強の持ち時間では足らな過ぎる）、おそらくその解決策は、現状、殆ど無職の高齢者の再活用（再雇用）に尽きるのではないかと、そんなことが私の頭を過りました。不足する国内労働力、余り続ける高齢者の持つ労働力、地域包括ケアシステムを導入すれば、その地域で必要な働き手は、まさに余っている高齢者の労働力しかない筈だから、この力を活用するしかないだろうと思います。つまり、元気な高齢者が元気でない高齢者・障害者・児童を支える仕組みを創出、高齢者の労働力こそが地域包括ケアシステムの推進力になるのだろうと思いました。

面白いことに、今の 70 代の人たちは自分を高齢者だとは思っていない、ということが最近のアンケート調査の結果で判ったことです。ならば、団塊の人たちに再雇用、再々雇用の機会をどんどん提供するのが最も必要で重要な喫緊の施策ではないかと思いました。



【施設見学の感想】

『小平福祉園』を見学して

住所：小平市花小金井8-1-10（花小金井駅徒歩15分）

8班 島村 佳代

11月16日（水）、小平福祉園へ見学に行きまして。

小平福祉園は昭和48年に東京都が視覚障害を持つ知的障害者の入所施設として開設。平成21年に社会福祉法人武蔵野会による施設運営が開始され、平成27年11月、新施設完成により現在の場所（公立昭和病院の隣り）に移転しました。

平成28年4月から児童部門が開設され、児童発達支援と放課後等デイサービスが始まり、さらに通所の生活介護と就労継続支援B型が加わって多機能型施設として新たなスタートを切っています。短期入所事業、相談支援事業、日中一時支援事業も行っています。

入所施設に入所されている方は42名。年齢は20歳～89歳。生活棟は男女で分かれています。地域医療機関との連携を保ち医療ケアの充実をはかっているため安心です。

通所施設では、生活介護「リーフ」は定員20名で現在10名が在籍。日中活動は、陶芸、園芸、紙すき、手芸、音楽活動、運動、調理活動、カラオケなど行っています。ちょうど見学させて頂いた時は、可愛らしい筒状の布袋に敷地内で栽培したハーブを詰めてクリスマスリースを作っていました。

就労継続B型「サンライズ」は定員10名で現在5～6名の在籍。ダイレクトメールなどの軽作業、公園清掃、同施設内にある喫茶「フローラ」で販売するパンの製造及び、接客、レジでの仕事を行っています。

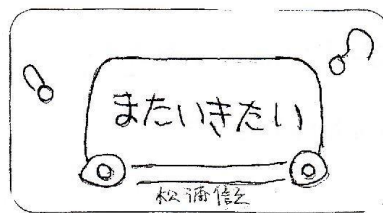
見学終了後、喫茶「フローラ」で作っている焼き立てパンを購入し（ケーキセットもあります）、受付で売っているポプリや紙すきのポチ袋などとてもセンスがよくて、たくさん購入してきました。

施設は新しいのでとにかく綺麗で、廊下も大人3人並んで歩けるほど広々としていました。建物は敷地面積8,268.922㎡、建物延べ面積3,484.40㎡の総平屋造りで、敷地内にはハーブの栽培や散歩コースもあり、ここは本当に東京都小平市？と目を疑いました。

また、天井が高い体育館（ホール）は冷暖房完備で、快適な空間で余暇活動を行うことができ羨ましく思いました。



【親子旅行の感想】



2班 松浦 信之



今年は日帰りの親子旅行を計画しました。
参加者の方に思い出、感想を一言お願いしたところ、たくさんの方々が思い思いの楽しかった気持ちを用品紙一杯に書いてくださいました。どうぞご覧ください。

宿泊旅行 ☆2016年8月27日(土) ☆

行先：麒麟横浜ビアビレッジの工場見学～横浜中華街のオーダーバイキング～
横浜八景島シーパラダイス



社会福祉法人さくらの園 支援員 権藤 彰

さくらの園の職員である僕は長野県諏訪旅行のとき以来の旅行のお手伝いとして参加させて頂きました。メンバーは和田山さん、今村さん、田代さん。和田山さんと今村さんはさくらの園で、田代さんは前回の諏訪一泊旅行で一緒でしたのでスムーズに旅行を楽しめました。

ビール工場見学で一番印象に残ったのは案内して下さった綺麗な方が「田無と言えば北口にタイ料理屋さんがあるよよく行ってました」とお話ししてくれた事です。下戸の僕は知識としてビールの勉強にはなりましたが試飲コーナーでは「サイダーは本当においしいなあ」と舌鼓をうったものでした。

施設綺麗でしたね。大麦でやってるビール工場というのも洒落がきいてました。

中華料理バイキングではすぐ食べ始められたのでとてもよかったです。その分利用者さんの好みと量を考えて注文する事が難しかったです。つつい注文しすぎてしまい、ようやく自分達のテーブルが食べ終えたと思ったら別のテーブルから余りがやってきて困り果てました。この後バスに揺られる事を考えるとさすがに残すしかなく、自分達はきちんと食べたはずなのに目の前の食べ物を余らせるという無念・・・しかし中国では残すまで振る舞うのがおもてなしのマナーといえますから中国人の店員さんの的には日常の出来事なのかもしれませんね。(饅頭を食べながらウロウロしていた子供が可愛かった)

お腹に中華がつまっていたからでしょうか、八景島のフリーフォールは利用者さんからNGがでました。乗りたかったなあ。

社会福祉法人さくらの園 支援員 佐々木 牧人

残暑が残る中、初めて親子旅行に参加させていただきました。バスの中での自己紹介は緊張しましたが、皆様の温かいまなざしで緊張もほどけました。

最初に行った麒麟のビール工場では、一番搾りと二番搾りの違いを目で、飲んで体験できた事がとても新鮮でした。残念ながら私自身アルコールは飲めませんでしたが、利用者さん、親子さんが美味しそうに飲んでいる姿がとても麗しかったのを覚えています。

次に行った、八景島シーパラダイスでは普段見られないイルカのショーや珍しい生き物を見ることが出来ました。特に嫌がる利用者さんはおらず、皆さん目を丸くして見ていました。

今回の親子旅行に参加してみて、普段接している利用者でも親御さんの前では、違った口調、行動を目の当たりに出来てとても新鮮な気持ちになりました。

次回も、まだわかりませんが参加したいなと思いました。

5班 白石 明日香

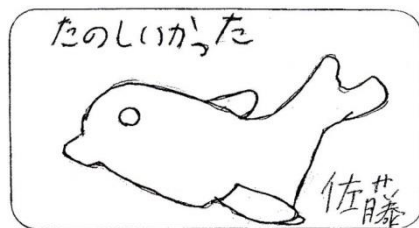
お天気に左右されないコースだったので、安心して楽しめました。

工場見学の説明は子ども達には少し難しかったかな？でもビールやジュースの試飲に大喜びでした。みんなで円になって食べた中華では、保護者同志の会話も盛り上り、私も参考になる事がたくさんありました。

日帰りだと難しいかもしれませんが、体験（モノ作り）や生き物とのふれ合いもやってみたいなと思います。

今回班長をやらせていただきましたが、一人一人のお子様をよく理解できておらず時間に合わない時がありました。次回は集合時間に余裕を持って声をかけていけたらと思います。

2班 佐藤 重雄



4班 三津井 啓允

8月27日（土）に日帰り旅行で横浜の麒麟横浜ビアビレッジと中華食べ放題と横浜八景島シーパラダイスに行きました。親子旅行に参加したのは、3年前に行った東京スカイツリーの時以来です。

僕は、横浜八景島シーパラダイスに行くのは初めてだったので申し込んだ時からとてもワクワクしていました。

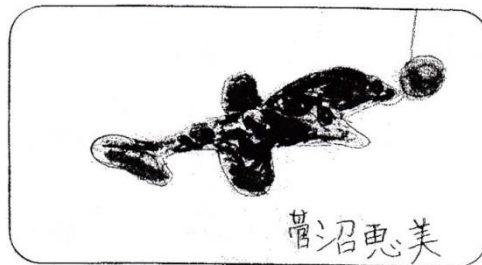
麒麟横浜ビアビレッジでは、ホップや麦芽に触る体験をしたり、一番麦汁と二番麦汁の飲み比べをしたり、工場内のビールのタンクを見たりしました。飲み比べでは、一番麦汁の方が味が濃くて、甘みがあって美味しかったです。二番麦汁の方は少し苦味がありました。最後の試飲では、麒麟一番搾りの“神奈川づくり”を頂きました。

中華食べ放題は、班毎に分かれてオーダーバイキングを食べました。出来たての料理が出てきて美味しかったです。北京ダックが一番印象に残りました。北京ダックを初めて食べることが出来て満足しました。

横浜八景島シーパラダイスでは、イルカやアシカ等海の動物達のショーを見たり、アクアミュージアムに行ったり、ドルフィンファンタジーに行ったりしました。海の動物達のショーでは、多くのイルカの同時ジャンプに感動しました。アクアミュージアムの水槽はとても大きくて、海の生き物が沢山いました。カニやサメや小魚が沢山いました。ミュージアムの外には、なぜかカピパラもいました。ドルフィンファンタジーはイルカがメインのドーム型の水槽です。

僕は、過去に何度か横浜に行った事がありますが、今回は初めての所ばかりだったので、普段は見る事が出来ない様々な物を見る事が出来て良かったです。

今後も機会があれば、参加したいと思います。楽しい一日を過ごす事が出来て良かったです。



5班 菅沼 恵美

4班 小矢野 慎平

麒麟ビール横浜工場で、一番搾りのビール見学に行きました。

麦の匂いを嗅いだり、食べたり、これまで体験したことがない麦の味わいを楽しむことが出来ました。さらに、一番搾りと二番搾りの飲み比べも体験しました。ホップを入れてない一番搾り（麦のジュース）は甘みが良く、砂糖は一切使わない自然の甘みで美味しくいただきました。麒麟一番搾り横浜限定バージョンを初めて飲みましたが、苦みもあってほんの少しだけ飲みました。個人的には、ビールよりホップが入ってない一番搾りの飲み比べの方が苦みもなく美味しかったです。

昼食は中華のバイキングで、北京ダック、チャーハン、春巻き、黒酢豚、シューマイ、フカヒレスープ、楽しく味わって食べました。

午後は横浜八景島シーパラダイスでイルカショーを見ました。イルカショーが終わった後、増田セバスチャンプロデュースの水族館に行こうとしたが、残念ながらフォトブースだけでした。

水族館から出た後、意外にも涼しかったです。雨も降らず、楽しい日帰り旅行を過ごすことが出来ました。皆さんと会えて良かったです。

運転手の竹内さんも2014年8月30日、31日の長野県信州方面 一泊旅行以来2年ぶりにお会いできたのでとてもうれしかったです。

来年もまた、親子旅行に行きたいと考えています。

2班 田代 敏

(日帰り) 親子旅行に参加しました。

行先: 横浜 最初はキリン横浜ビアレッジを見学しました。キリンビールや午後の紅茶やら色々な物を見学しました。見学が終わったらビールの味を試飲をしました。おつまみも出ました。キリンの工場でみんなできねん写真を撮りました。それから横浜中かで色んな中かを食べました。ふかひれスープを飲んでチャーハンが一番おいしかったです。おなかがいっぱいでおいしかったです。横浜八景島シーパラダイスに行ってイルカのショーを見ました。班ごとに分かれて水ぞく館を見学しました。

4班 岡頭 三枝子

8/27 たいぼうの親子旅行 天気もまあまあ

すこし雨にふられたけれどとてもたのしかった。お昼はいろんな中かりょうりがでてとてもたのしかったです。たくさんあってたべきれなかったです。いるかやあしかのショーもみました。ひとがおおぜいいてたいへんでした。すわるところがなかった。しんせつな人がいて二人だけ私をいれてすわりました。またいきたいです。よろしくおねがいします。

5班 清水 博

キリン横浜ビアレッジに行ってビールの作っている所を見学しました。中華街でごはんを食べました。又キリン横浜ビアレッジと中華街にいきたいです。チャーハンがちょっとあぶらこかったので次の所に行ったらあぶらっこくなかったらお昼ごはんを変えてください。

6班 島田 麻里

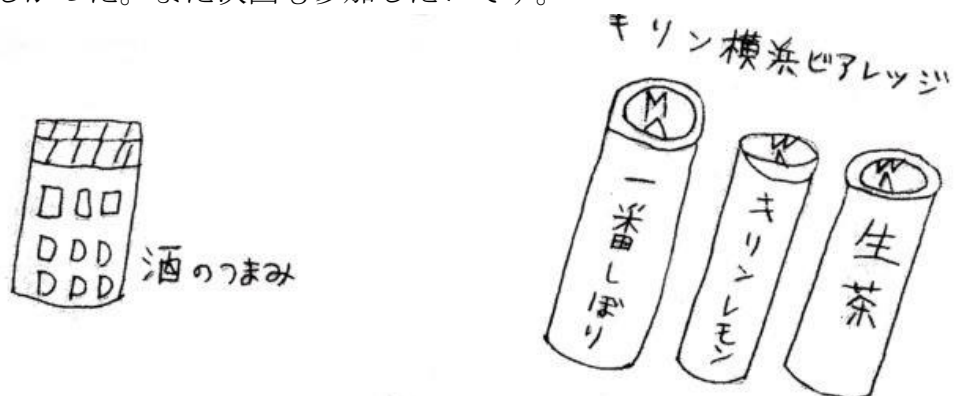
私は親子旅行にさんかして一番よかったことは、八景島シーパラダイスに行ったことです。私はおさかなを見るのが大好きなので大きなすいそうに入ったおさかなは、何んだかしんせんかんじがしてよかった。また行きたいです。

8班 伊藤 優也

イルカショーが楽しかった

4班 名古屋 幸恵

日帰り旅行は楽しかった。また次回も参加したいです。



成人おめでとう！

☆平成 29 年、田無手をつなぐ親の会から 1 名の方が成人の仲間入りをしました☆

3 班 寺沢 悠一朗さん



☆☆☆編集後記☆☆☆

青い鳥、第 66 号はいかがでしたか？

執筆者の方々にはお忙しい中にも関わらず原稿をお寄せいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今年は親の会発足 50 年の節目の年です。親の会の様々な活動を通じて、会員の皆様との絆をさらに深めていきたいと思えます。青い鳥についての、ご意見、ご感想などありましたら、事務局までお寄せ下さい。
(編集代表 : 島村佳代)

★親の会ホームページ (<http://oyanokai-tanashi.jimdo.com/>) でも『青い鳥』を閲覧することができます。